

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果 達成目標 「建築学」は、とても幅が広く、その就職先の建築業界も多岐に渡っています。幅広い学習が必要となりますが、自らの将来も見据えて、講義に取組み、建築学の魅力を理解してもらいます。 教育効果 建築は、多岐の要素が結びついているため、幅広い知識を身に付ける必要があります。大学教育において「建築学」を学ぶためには、入学した初期の段階で、その多岐に渡った要素についてよく理解し、将来を見据えていくことが重要となります。	2) 自己評価 写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が見られました。	3) 授業改善・対応方法 授業評価 4.56 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。受講ノートに質問や意見を記載できる欄を設けており、学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。
建築概論			
建築の歴史	達成目標 建築の歴史的な流れを理解できる。 建築様式の違いを理解できる。 日本や海外の建築家と建築作品の組み合わせを正しく理解できる。	写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が見られました。	授業評価 4.59 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。受講ノートに質問や意見を記載できる欄を設けており、学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。
基礎製図Ⅰ	達成目標 造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。建築図面の表現方法および木造住宅の特性とプランニングの基礎を理解・習得することが目的です。	建築図面の基本的な表記方法を段階的に把握できるように努めた。単に、図をコピーするだけでなく、開設をしっかりと加え、意味を理解した上で、トレースに臨むように工夫した。また、住宅のプランニングの基礎を理解し、習得することの苦心した。	授業評価 4.48 学生によっては、全ての段階でサポートを必要とするものもいるが、できる限り自分で考え、線の意味や、記号の意味を理解するようにさらに工夫したい。
基礎製図Ⅱ	達成目標 造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。建築図面の表現方法および木造住宅の特性とプランニングの基礎を理解・習得することが目的です。	建築図面の基本的な表記方法を段階的に把握できるように努めた。単に、図をコピーするだけでなく、開設をしっかりと加え、意味を理解した上で、トレースに臨むように工夫した。また、住宅のプランニングの基礎を理解し、習得することの苦心した。	授業評価 4.48 学生によっては、全ての段階でサポートを必要とするものもいるが、できる限り自分で考え、線の意味や、記号の意味を理解するようにさらに工夫したい。
建築時事	達成目標 日本国内の建築時事はもちろんのこと、海外の建築の動向も含め、近年に話題となっている建築や都市関連の事象における知識を広げること。 プレゼンテーションでのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと	一方通行の授業にはならないように「応答」のできる授業にするよう心がけています。毎回、内容に応じて「整理ノート」「スケッチ」「図表」などを作成してもらっています。	授業評価 なし 受講ノートはしっかりと書き込みしている。受講ノートに質問や意見を記載できる欄を設けており、学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。
卒業研究Ⅰ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	個々の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。	授業評価 5.00 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。
都市計画学	都市計画に関する基礎的な歴史、必要性、目標、手法、法制度、課題について理解する。 様々な時代や地域における都心のあり方に関心をもち、都市の歴史や、都市形態の変容などについて理解する。	授業では、都市や建築についての写真や図面を使いながら、都市の発展や変容について考えさせるように努めています。また、授業中に写す写真映像のスケッチや、授業内容を記述してもらい理解度を把握しながら、フィードバックできるようにしています。	授業評価 4.52 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。受講ノートに質問や意見を記載できる欄を設けており、学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。
卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	個々の能力を判断しながら、テーマをまとめるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。	授業評価 5.00 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A191006 環境工学 I	<p>建築を形成する上でもとめられる自然環境の特性や人間の快適条件など環境デザインに必要な基礎的事項の修得をめざします。温熱環境や光環境などに関する事項を理解し、伝熱および照度等に関する基礎的な計算ができる。</p>	<p>環境工学の基礎的な内容について取り組んだ。計算問題などをふくむ論理的な内容もあることから、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在するものと思われる。</p>	<p>授業評価4.07 文系よりの学生にとっても取り組みやすく感じられるよう、関心を持ちやすい導入での説明や課題設定などについて工夫をしたい。</p>
A191020 専門ゼミナールⅢ	<p>建築学科の専門教育を履修していく自立的学習をより意義あるものとするために、建築への関心・興味を深めます。自身の選択した履修モデルを参考にしつつ、建築のさまざまな分野の中から、自らの能力や適性にあった建築の学習志向を進める支援を行います。</p> <p>建築に関わる課題に積極的に取り組み、解決策・提案をまとめることができる。</p>	<p>3人の教員が担当した。学生は3グループに分かれ、3つのテーマに取り組んだ。それぞれの課題にしっかりと取り組む様子が見られた。</p>	<p>旧カリであるため、当該科目はなくなる。他科目の中で知見を活かしたい。</p>
A191024 建築環境実験	<p>気温や湿度、気流、空気質、光、音などについてその環境の体験と計測を通じ、体感と指標値の関係を実感するとともに、評価指標、分析方法についての基礎を学び、レポートして表現する力を身につけます。</p> <p>建築環境に関する実験・実測を行い、結果の整理、分析、考察ができる。</p>	<p>環境工学に関する実験に取り組んだ。グループでテーマを定め、実験計画を立案、実験の実施、プレゼンを行っている。主体的に学ぶグループ学習になったものと思われる。</p>	<p>授業評価4.19 実験テーマの立案などで、試行錯誤する過程も多く、そういった作業が苦手な学生も存在するようと思われる。多くの学生が主体的に参画できるよう配慮したい。</p>
A191024 建築環境実験	<p>気温や湿度、気流、空気質、光、音などについてその環境の体験と計測を通じ、体感と指標値の関係を実感するとともに、評価指標、分析方法についての基礎を学び、レポートして表現する力を身につけます。</p> <p>建築環境に関する実験・実測を行い、結果の整理、分析、考察ができる。</p>	<p>環境工学に関する実験に取り組んだ。グループでテーマを定め、実験計画を立案、実験の実施、プレゼンを行っている。主体的に学ぶグループ学習になったものと思われる。</p>	<p>授業評価4.19 実験テーマの立案などで、試行錯誤する過程も多く、そういった作業が苦手な学生も存在するようと思われる。多くの学生が主体的に参画できるよう配慮したい。</p>
A191025 木造住宅設計 I	<p>木造住宅に用いられる仕口模型の制作を行い、仕組みや部材名称、部材寸法等を立体的、体感的に理解します。さらに木構造における木組み、納まりなどについて講述し、各図面のトレースを行いながら理解を深めます。</p> <p>木造住宅の設計に求められる図面表現手法および木材加工の基本を理解できている。</p>	<p>大工棟梁の非常勤講師とともに、本格的な木組みの制作や土塗り壁の制作に取り組んだ。有意義な内容であったと思われるが、作業量が多かったことも事実である。</p>	<p>授業評価3.86 作業量について、個人差などにも配慮しながら取り組みやすい内容となるよう配慮をしたい。</p>
A191034 卒業研究 I	<p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。そのために、所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p> <p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>主体的に、各学生が研究テーマに取り組むことができた。</p>	<p>授業評価4.43 各学生の興味に寄り添いながら、学びを充実させられるようにしたい。</p>
A192004 建築ものづくり広場	<p>建築や生活をものづくりの視点から見つめなおし、空間づくりに求められるアイテムを構想して製作を行います。自由な着想からこれを展開させる力を身につけ、機材を用いて制作を行うプロセスについて体験的に理解します。自らものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。自由な発想で、ものづくりを行うことができる。ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。</p>	<p>3人の教員が担当した。学生は3グループに分かれ、3つのテーマに取り組んだ。それぞれの課題にしっかりと取り組む様子が見られた。それぞれの課題が工夫されており、1年次の教育としては程よいものと思われる。</p>	<p>授業評価4.42 引き続き、各学生の建築やものづくりへの関心を高め、興味や可能性の幅を広げられるよう配慮しながら、授業運営を行いたい。</p>
A192006 環境工学Ⅱ	<p>日照と日影、音環境、換気など環境デザインに求められる基礎的事項の習得および環境問題と持続可能な建築デザインに関する価値観の醸成を目的とします。日照と日影、音環境、換気などに関する事項を理解し、基礎的な計算ができる。環境デザイン、省エネについての資料収集を行い、提案ができる。</p>	<p>環境工学の基礎的な内容について取り組んだ。エコハウスの検討など、論理的な内容、調査もあることから、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在するものと思われる。</p>	<p>授業評価4.11 文系よりの学生にとっても取り組みやすく感じられるよう、関心を持ちやすい導入での説明や課題設定などについて工夫をしたい。</p>
A192009 専門ゼミナールⅡ	<p>建築学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、建築への広く、深い関心や興味を育てます。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、建築のさまざまな分野の中から、自らの能力や適性にあった建築の学習志向を見定めるよう支援します。建築に関わる課題に積極的に取り組み、解決策・提案をまとめることができる。</p>	<p>3人の教員が担当した。学生は3グループに分かれ、3つのテーマに取り組んだ。それぞれの課題にしっかりと取り組む様子が見られた。</p>	<p>旧カリであるため、当該科目はなくなる。他科目の中で知見を活かしたい。</p>
A192023 木造住宅設計Ⅱ	<p>木造住宅設計にもとめられる実践的な設計技術の習得をめざします。木造構法の基礎をふまえ、木造住宅の簡単な設計を行うことができる。</p>	<p>軸組み模型の制作や木造構造図の作図に取り組んだ。取り組みやすい内容であったことから、各学生がしっかりと課題提出などを行っていた。</p>	<p>授業評価4.51 引き続き、わかりやすい説明とともに、理解しやすい課題設定などを行いたい。</p>
A192025 建築設備	<p>本講義では、空調、給排水、防災、電気各設備について講述し、演習課題を通じてより実践的な技術を習得します。建築設備に関する基礎的な知識を修得し、簡単な設備計画が行える。</p>	<p>建築設備の説明について、動画や画像などを用いたビジュアルな説明を心がけた。学内の設備見学など、理解しやすいものであったと思われる。</p>	<p>授業評価4.28 工夫を行い、わかりやすい説明とともに、理解しやすい課題設定などを行いたい。</p>

A192033 卒業研究Ⅱ	<p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して薦める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることが目的とします。授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>主体的に、各学生が研究テーマに取り組むことができた。</p>	<p>授業評価4.48 各学生の興味に寄り添いながら、学びを充実させられるようにしたい。</p>
L191045 キャリアデザインⅤ 集中	<p>就職活動の準備としてインターンシップ参加に必要な書類を作成し、志望動機、自己紹介文を作成できるようにします。インターンシップに参加し、記録を作成できる。近づいてきた就職活動対策を意識し、プレ社会体験としてインターンシップに参加し、仕事や就業に対する理解を深めることを目的とします。</p>	<p>インターンシップへの参加を主体としながら、事前、事後指導を行った。外部の企業との調整など難しい部分も多々あったが、意欲的に多くの学生が取り組んでいた。</p>	<p>外部の企業との調整などは、個別の対応も多く難しい部分も多々あった。引き続き、学生にとって有意義なインターンシップが実施できるよう、工夫をこらしていきたい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A191008 専門ゼミナール I	<p>達成目標 ①建築に関わる様々な事実や事象を自らの問題意識をもって理解することができる。②問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけ、活用することができる。③問題や解決提案を他者に伝えることができる。</p> <p>教育効果等 建築学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、建築への広く、深い関心や興味を育てられると期待されます。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、建築のさまざまな分野の中から、自らの能力や適性にあった建築の学習志向を見定められると考えられます。</p>	<p>建築を主体的に学習するための志向性とそのためのスキルを身につけることをめざす授業であり、2年間にわたる専門ゼミナールの最初の科目として、建築の学びの先輩である教員から提示されるさまざまな話題や資料を題材に、それを理解し、そこにとどのように問題を見定めるかを学習できるようにした。演習科目であり、学生の個別指導も可能であるため、学生意見を拾い上げ、演習課題の提出書式をよりわかりやすく、また、内容についての考察を深められるものへと改善するなど、継続的に対応することができた。</p>	<p>授業評価3.68</p> <p>授業評価回答率は88.1%であり、学生の関心はかなり高いようであるが、授業評価はあまりよくない。これは、この授業の達成目標が高いと感じられるためではないかと考えられる。自立的学習の支援、建築への広く、深い関心や興味の育成といった授業の目的が、身近なものに感じられるよう、課題を段階的に取り組むことができるよう、また、ステップバイステップの学びができ、質問等を引き出しながら自立的学習ができるよう、工夫したい。</p>
A191030 卒業研究 I	<p>達成目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p> <p>教育効果等 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身がテーマを設定し、研究成果がとりまとめられるようにする授業であり、とりまとめをするなかで、教員も含め、他の人に伝える力が養われることが期待されます。</p>	<p>学生が学修課程で習得してきた知識を引き出し、研究テーマと関連づけられるよう、密なディスカッションをすること、個別化し、あるいは、発散する傾向にある思考を研究テーマの追求に向け方向づけること、文書やデータを処理するなかで伝える力が育つようにするおとなどに努めた。学生の反応は、研究の方向を適切に指導してくれる、内容が分かりやすいなどおおむね良好であるので、今後とも、こうした工夫を続けてゆきたい。</p>	<p>授業評価データなし</p> <p>学生の反応は、研究の方向を適切に指導してくれる、内容が分かりやすいなどおおむね良好であるので、授業の達成目標、方法などをふまえながら、学生が関心をもつことのできる研究テーマの例示、研究方法などの事例や資料の整理、学生が理解しやすいディスカッションの進め方などの工夫を続けてゆきたい。</p>
A191041 まちづくり論【開放】	<p>達成目標 まちづくりにかかわる基礎的な事項として、その歴史、思想、必要性、目標、手法、課題などについて、都市計画の現状と課題を踏まえつつ、理解することができる。</p> <p>教育効果等 まちづくりの理論と方法を取り組みの事例にふれながら学び、なぜまちづくりが必要とされているのか、どのようなまちづくりが進められるべきか、建築を学ぶ者にはどのような役割ができるかふり返ることができることと期待されます。また、市民参加、ワークショップなどの手法の現状、今後のあり方などについて考える機会が提供できます。</p>	<p>まちづくりの理論と方法を、事例にふれながら学ぶことができるよう、配布プリントやビデオをもとに、わかりやすく、また、内容についての考察を深められるよう工夫することができた。手法や技術は広範にわたり、考察すべき事項も多いため、ポイントをしぼる必要があり、継続的に取り組みたい。</p>	<p>授業評価3.00</p> <p>履修者7名中、授業評価回答者は3名(回答率は49.8%)であり、授業評価は必ずしも学生の評価を反映していない可能性も考えられるが、評価はかなり低いようである。これは、本授業が、建築の具体的な対象を扱うというより、まちづくりの目標、手法、技術など、抽象的、概念的 content が多いため、建築学科の学生に扱いにくいと考えられる。配布プリントの視覚的表現、ビデオ教材の選択など、工夫したい。</p>
A191041 まちづくり論【開放】	<p>達成目標 まちづくりにかかわる基礎的な事項として、その歴史、思想、必要性、目標、手法、課題などについて、都市計画の現状と課題を踏まえつつ、理解することができる。</p> <p>教育効果等 まちづくりの理論と方法を取り組みの事例にふれながら学び、なぜまちづくりが必要とされているのか、どのようなまちづくりが進められるべきか、建築を学ぶ者にはどのような役割ができるかふり返ることができることと期待されます。また、市民参加、ワークショップなどの手法の現状、今後のあり方などについて考える機会が提供できます。</p>	<p>まちづくりの理論と方法を、事例にふれながら学ぶことができるよう、配布プリントやビデオをもとに、わかりやすく、また、内容についての考察を深められるよう工夫することができた。手法や技術は広範にわたり、考察すべき事項も多いため、ポイントをしぼる必要があり、継続的に取り組みたい。</p>	<p>授業評価3.00</p> <p>履修者7名中、授業評価回答者は3名(回答率は49.8%)であり、授業評価は必ずしも学生の評価を反映していない可能性も考えられるが、評価はかなり低いようである。これは、本授業が、建築の具体的な対象を扱うというより、まちづくりの目標、手法、技術など、抽象的、概念的 content が多いため、建築学科の学生に扱いにくいと考えられる。配布プリントの視覚的表現、ビデオ教材の選択など、工夫したい。</p>
A192020 専門ゼミナールIV	<p>達成目標 建築に関わる様々な事実や事象を自らの問題意識をもって理解し、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけ、意見や批判を受け止め、考えつづけていく探求能力を身につけられるようにします。</p> <p>教育効果等 これまでに学習してきた自立的学習技法を応用し、建築への問題関心をさらに深める学習課題を自ら設定し、解決する能力を養う効果が期待できる。この関心や興味が履修モデルの再検討、さらには卒業研究へと反映され、建築のさまざまな分野の中から、自らの能力や適性にあった建築職能の在り方を見定められるようになる。</p>	<p>科目名称にゼミナールをうたう演習科目であり、個別指導もしやすいため、学生意見により継続的に改善・対応に努め、演習課題の提出書式をよりわかりやすく、また、内容についての考察を深められるものへと改善することができた。</p>	<p>授業評価4.20</p> <p>授業評価回答率は45.7%とあまり高くないが、評価はおおむね良好である。今後とも、学生意見により継続的に改善・対応するとともに、演習課題の提出書式をよりわかりやすく、また、内容についての考察を深められるものへと改善してゆきたい。</p>
A192027 都市計画法	<p>達成目標 都市づくりの相乗的な効果のために制定された都市計画に関する法制度を、都市計画法を中心に学習し、都市の利便性、都市環境の保全等のために果たす都市計画法の役割・意義・限界を理解することができる。</p> <p>教育効果等 人・産業・機能が集積した都市を対象に、過去からの遺産を受け継ぎつつ未来への生活をより良くするために、一定の私権制限のもと、住民の最大限の公益を高めるたさまざまな都市づくりの法律について学習することが期待される。</p>	<p>ややもすれば抽象的になりがちな都市計画法関連知識を、事例にふれながら学ぶことができるよう、配布プリントやビデオをもとに、わかりやすく学べるよう工夫することができた。都市計画等にかかわる情報は広がりも大きいため、授業資料等の内容はポイントをしぼる必要があり、継続的に取り組みたい。</p>	<p>授業評価3.77</p> <p>回答率は39.5%と高くなく、授業評価は必ずしも学生の評価を反映していない可能性も考えられるが、評価はかなり低いようである。これは、この授業が、建築学科学生が扱い慣れている建築形態、材料、構法などの具体的な事項を扱うより、都市計画法等に特徴的な抽象性(手続的事項を規定する内容が多い)を扱うことが大きいと考えられる。学生意見により継続的に改善・対応するとともに、演習課題の提出書式をよりわかりやすくするなどの改善を続けたい。</p>

A192029 卒業研究Ⅱ	<p>達成目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p> <p>教育効果等 担当教員の指導のもとに、研究や課題のテーマを設定し、そのテーマに向かって、自己の探求心や分析力などを駆使しながら、総合的な学習のまとめとしての成果物を完成させ、かつ、その内容についてプレゼンテーションを通じて多くの人に伝え、理解してもらうための学習ができると期待される。</p>	<p>学生が学修課程で習得してきた知識を引き出し、研究テーマと関連づけられるよう、密なディスカッションをすること、個別化し、あるいは、発散する傾向にある思考を研究テーマの追求に向け方向づけること、文書やデータを処理するなかで伝える力が育つようにするおとなどに努めた。学生の反応は、研究の方向を適切に指導してくれる、内容が分かりやすいなどおおむね良好であるので、今後とも、こうした工夫を続けてゆきたい。</p>	<p>授業評価3.20 学生の反応は、研究の方向を適切に指導してくれる、内容が分かりやすいなどおおむね良好であるので、授業の達成目標、方法などをふまえながら、学生が関心をもつことのできる研究テーマの例示、研究方法などの事例や資料の整理、学生が理解しやすいディスカッションの進め方などの工夫を続けてゆきたい。</p>
L192004 スタディスキルⅡ 平成30年度以前入学生(3学科合同)	<p>達成目標 自らの関心をもとに「問い」を立て、それについて本やインターネットから情報を得、思考を深めながら「答え」を導くことができる。さらに調べ、考えたことを他のひとにわかりやすく順序立てて示し、説明することができる。</p> <p>教育効果等 大学の授業を自分にとって意味あるものとして生かすために、また自らの興味や関心を、考える対象として深めていくために、基本的な学びの(学ぶための)技術であるスタディスキルを身につけられ、また、プレゼンを通して互いに学び合い、コミュニケーション力を高められると期待される。</p>	<p>学生が学修課程で習得してきた知識を引き出し、研究テーマと関連づけられるよう、密なディスカッションをすること、個別化し、あるいは、発散する傾向にある思考を研究テーマの追求に向け方向づけること、文書やデータを処理するなかで伝える力が育つようにするおとなどに努めた。学生の反応は、研究の方向を適切に指導してくれる、内容が分かりやすいなどおおむね良好であるので、今後とも、こうした工夫を続けてゆきたい。</p>	<p>授業評価4.36 授業評価は非常に高いが、授業評価回答率は24.3%とかなり低く、関心の高い(授業評価が高い)学生中心の回答であったと思われる。受講ノート作成時間の確保、インターネットによる情報検索とPCによる文書作成環境の整備、留学生への配慮などが必要であり、継続的に取り組んでゆきたい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
住宅生産管理	<p>建築施設における管理の諸領域と視点はどのようなものかを最初に概観し、主要なキーワードを紹介します。次に、建築材料学、建築構法学、建築施工学の関連知識の延長線上で理解しやすい建築施工の領域における管理を取り上げ、補修・交換技術、品質管理などについて論じます。</p> <p>また、管理業務としてなされる維持保全の必要性、内容、方法、そしてリフレッシュ工事など建築の付加価値を高める維持保全の事例を通観します。その後は、施設管理について蓄積が比較的多いマンションの管理を主たる事例として、施設管理の歴史と諸問題、法律と管理組織、建築供給における欠陥の問題、耐用年数と老朽化、劣化現象と修繕、建築の建替え立替えとコンバージョン、地震災害を受けた建築の復旧と地震対策などに論を進めます。最後に、管理の視点からのフィードバックのあり方を、建築計画における博物館の運営費、集客、リニューアルへの対応についての議論、および建築ストックの管理や営繕機能再評価も含めたマネジメント時代の建築計画論をもとに探究します。最終週には管理の視点よりみた計画・生産のあり方を論じるレポートの発表と討論により学修成果を総合します。</p>	<p>住宅の発生について、それが置かれる環境と先人たちの試行錯誤の結果としての伝統を学び、テキストの単元に従って自身の考察を深める課題を与えた。その際の参考になると思われる資料を提示して、考察に活かせるようにした。</p> <p>それに対して、優れたレポートを提出してくれた受講生が多かった。また、講義の進展とともに受講生のレポートの詩も向上したと思う。</p>	<p>授業評価</p> <p>適切な資料の提供を心掛け、考察の質を高めるようにしたい。</p>
工業科教育法Ⅱ	<p>授業運営法の立案や模擬授業を通して授業の仕方を学び、自信を持って教育実習に臨めるようにする。</p>	<p>工業高校に生徒相手に、授業を行う際の心構えについて、意識を持たせることができたと思う。</p>	<p>授業評価</p> <p>自分のこれまでの経験を伝えるとともに、授業の進め方についての具体的な方法をより詳細に教えていきたい。</p>
設計演習C	<p>各領域の実践的デザイン能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、実践的職業人として社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。</p>	<p>設計については未熟であったが、こちらが与えたアドバイスは伝わったと思う。</p>	<p>設計のための資料をもっと増やして、設計の質を高めるようにしたい。</p>
設計演習C	<p>各領域の実践的デザイン能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、実践的職業人として社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。</p>	<p>設計については未熟であったが、こちらが与えたアドバイスは伝わったと思う。</p>	<p>設計のための資料をもっと増やして、設計の質を高めるようにしたい。</p>
建築環境実験	<p>建築環境に関する実験・実測を行い、結果の整理、分析、考察ができる。</p>	<p>建築物が造り出す環境について、建築物の内部だけではなく、その周りについても考慮できるようにするために、建築材料の外部お仕上げ材料が周囲に及ぼす影響についても、測定を通じてよく理解できるようにしたかった。ただ、本年度はコロナウイルスの影響もあり、測定装置による測定は充分に行えなかったが、文献の記述について深く考察することによって、設計に当たっての意識を高めることができた。</p>	<p>これまで、クレームはなかったが、受講生からの質問や要望を深く分析することによって、これからの授業に生かしていきたいと思う。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
職業指導	<p>シラバスから 達成目標: 親身になって生徒の話聞き、自信を持って「進路」の指導ができるようになります。 目的: 実例に基づいた「進路指導」のための指導法を学びます。</p>	<p>テキストを中心に事例研究を進め、自身の進路に対する捉え方、他のものの考えを聞き、今後の参考となるような話し合いを行った。学生の経験や私個人の経験のすりあわせをすることで、今後の相談に乗るときの方の基本が身についたのではないかと感じた。</p>	<p>今回は履修者が2名であったので、多くの事例に出会えなかったが、話し合う上では深い内容に触れることができたと思う。これが10人だとここまで深くできなかったと思うのと20人以上だったら他の方策を見つけなくてはならないと思う。基本を忘れず、人数に応じた方策を地道に考えていきたい。</p>
心理学	<p>心理学の基礎用語を理解することができる。自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用できる。 心理学と言えば、人の心の動きがわかる学問であると思っている方(血液型や心理テストなど、比較的身近な、メディアに取り上げられるようなものをイメージされる方)も多いと思います。しかし、実際の心理学が対象とする領域は広く、人の性格、発達、学習、社会的な行動などがあげられます。そこで、本講義では、幅広い心理学の領域の中から、特に皆さんの日常生活に関係するテーマを取り上げながら、心理学的なものを見方を学ぶことを目的として授業を行っていきます。</p>	<p>シラバスの計画に沿って授業を進めた。1年生他、100余名と言うこともあり、初めて目にする心理学用語に戸惑う様子も見られた。しかし初めて触れるものでもそれが身近な物事に繋がっているのだという押さえをしていけば、身につけていくものであると考える。私自身、知らない分野もあり、勉強になった。また、留学生等にとっては難しい用語もあり、せめて英訳くらいもう少し丁寧にしておくよかったですと反省している。できるだけ丁寧に質問等に答えつつもであるが、まだまだ、力不足を痛感している。</p>	<p>系統立った流れを作り出し、学生が自分で調べ、自分なりに理解したことを表現できる課題の設問を考えていきたい。こちらの質問の意図さえわからない留学生もいたのでここの工夫をつけるよう努力していきたい。</p>
教育心理学	<p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方やさまざまな発達段階、発達課題に関して理解できるようになる。 教育心理学の4本柱である発達・学習・人格と適応・測定と評価に関する基礎的知識を理解すると同時に、教育場面での応用を模索する。</p>	<p>テキストに沿って講義を進めた。発達課題が正解かどうかは別にして教育心理学を考える上で各年齢における発達課題はきちんとおさえておきたかった。通り一遍になってしまい、反省している。各年齢に応じた教育のアプローチなどのエピソードも加えられるとよかったと思う。文部科学省から出された最新の通達等も含めたが、児童生徒の自己肯定感を待たせるために本当に必要なことはどこに出ても自分は自分であるという自信をもたせることである。100人が100人良い子になるわけではない。学習を進める上で、自分の適性を見つけるための学習をしているのだという自覚を持たせる教育者に育ってくれるような講義を目指したいと感じた。</p>	<p>人間の尊厳から教育することの意義、そのために必要な社会の在り方を考えた上での方法論や理論としての教育心理学ができればよいと感じた。今の自分では力量不足であるが、人間を俯瞰した中で義務、非義務教育、高等教育の中での教育心理学を伝えられるように努力していきたい。</p>
教育相談	<p>カウンセリングの3大理論(精神分析・自己理論・行動主義)を学習すると同時に、学校における問題行動(非行・いじめ・不登校等)及び個別カウンセリングの技法に関しても理解できるようになる。 教育相談に関する基礎的理論や技法を理解する。</p>	<p>テキストを中心にカウンセリングの理論も取り入れて講義を進めた。しかし問題の起きやすい子どもたちを考える上では、ピアジェの言う「具体的操作期」、「形式的操作期」の学習、幼児期までの「愛着」に関する学習をもう少しわかりやすく説明しておきたかった点を反省する。未知の事柄に対する人間の恐れの原因が問題行動等に繋がっている可能性も高い。その背景には社会の考え方、保護者の考え方、当事者が受けてきた境遇が大きく影響する。単にカウンセリングのマインドでそれらのこと全てにアプローチできるわけではない。寄り添うことはできるが寄り添うためのアドバイスする教員のマインド形成も大切であると反省した。</p>	<p>各年齢でおきやすい問題点をおさえておきたい。小学校中学年までの躓きは以降の学習や人間形成に大きく影響するのでこの年齢までの教育の重要さも説いておきたい。また、学習理論等日進月歩で変化していくのでテキストと最新理論、学習指導要領上の文言との整合性を図りながら講義を進められるよう努力していきたい。</p>
教職実践演習(中・高)	<p>教職課程の他の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認することを目的とする。</p>	<p>林先生に頼ってしまい、勉強させていたたい。教育実習を終ると一皮むけた学生の姿を見ることができ教職の大切さを改めて感じた。</p>	<p>林先生の素敵な講義を真似しつつ、自分なりの講義ができるよう努力していきたい。私は特別支援教育が専門であるが、普通高校の指導についても研究・研修を深めていきたい。</p>
事前事後指導	<p>実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にします。外部の学校での実習に臨むために、本校の学生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことを含めて行います。教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。教育実習をスムーズにできるようにすること。</p>	<p>少人数で教育実習を直前に控え、学生も欠席もなく前向きに取り組み、学習指導案の作成、模擬授業なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組みことができました。また、実習中の流れと心得を実務、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材は学生に好評であった。全て林先生にお任せであったが、今後は自分なりの進行ができるよう研修しておきたい。</p>	<p>「百聞は一見にしかず」ある程度のマナーと知識を身につけた段階で、一日、現場を見る機会があれば、日ごろの学習がうんと身につくと思われる。制約のある中で効果的な学習法法を探っていきたい。</p>
カウンセリング概論	<p>カウンセリング全般に関する知識を身につける。 カウンセリングの理論を支える哲学、技法、事例等の学習を通してカウンセリング全般への理解を深める。</p>	<p>テキストを網羅する形で進めたが、内容としては「国分康孝のカウンセリングの理論・技法・精神分析」を織り交ぜて説明していった。事例に沿って考える設問はよかったと考える。一部友達への回答そのまま返してくるものもいたが返信を丁寧にすることでこちらの意図はわかってもらえたと思う。教育心理学や教育相談の内容も多だけに2年生のこの時期で身につけることは難しいと感じた。うまい説明の工夫をもっとしなければならぬと反省した。</p>	<p>カウンセリングに必要な哲学、学習心理学の部分での工夫が必要であった。内容はともかく知識として知っておいて欲しい事柄を資料でまとも配布することもしてみたい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A191045 商業施設計画	商店街・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、空間構築と商業施設計画への応用かが出来るようになる。	商店街・大型商業施設の計画上の要素とその構成についての理解を図り、次に、施設計画の事例をもとに土地利用計画・施設計画を興味をもって受講していた。また施設全体に対する個別店舗・施設の役割と評価要素を学び、それらを各自に発表をさせることで、他の企画性の差を習得することができる内容であった。	授業評価4.23 商業施設の事例を元に講義を組み立てた内容ではあるが、その中でも自身の企画性や計画性などが表現できる部分も組み込んだ内容とし、発想力においても習得できるプログラムも加味していきたい。
A191007 建築設計製図Ⅰ	図面による表現方法の基礎を理解するとともに、木造住宅の基本的な特性を習得し図面化できるようにする。建築図面の表現方法および木造住宅の特性とプランニングの基礎を習得することが目的である。	毎講エスキスチェックにより、計画およびデザイン、木造の技術的な特性を指導しプランニングの進め方を指導ができた。同時に自身が計画したプランを第三者に伝えられるプレゼン能力を身につけることができる講義であった。	授業評価4.13 次講のための予習を明確にさせるように、各自への指示を具体的に分かりやすく指導する。授業内での作業目的をきめさせ、講義ごとの達成目標を感じさせる事ができるようにする。
A191019 建築設計製図Ⅲ	立地環境や建物の構造を理解して、設計図面(配置図、平面図、立面図、断面図)作成できる。建築のイメージを表現できる手法と伝えられることを習得できる。	毎講エスキスチェックにより、コンセプトや計画およびデザインの指導し、プランニングの進め方を指導できた。同時に自身が計画したプランを第三者に伝えられるプレゼン能力を身につけることができる講義であった。	授業評価4.09 次講のための予習を明確にさせるように、各自への指示を具体的に分かりやすく指導する。授業内での作業目的をきめさせ、講義ごとの達成目標を感じさせる事ができるようにする。
A191019 建築設計製図Ⅲ	立地環境や建物の構造を理解して、設計図面(配置図、平面図、立面図、断面図)作成できる。建築のイメージを表現できる手法と伝えられることを習得できる。	毎講エスキスチェックにより、コンセプトや計画およびデザインの指導し、プランニングの進め方を指導できた。同時に自身が計画したプランを第三者に伝えられるプレゼン能力を身につけることができる講義であった。	授業評価4.09 次講のための予習を明確にさせるように、各自への指示を具体的に分かりやすく指導する。授業内での作業目的をきめさせ、講義ごとの達成目標を感じさせる事ができるようにする。
A191037 卒業研究Ⅰ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	各学生の課題に対し掘り下げるべき問題を提議し、自身が把握しながら課題に取り組めるようにした。毎講、学生たちはテーマを持って研究に対し考え、それらを第三者に伝える能力を身につけることができた。	授業評価4.20 毎講、学生たちの研究の進行状況を把握し、スケジュールにのった研究を進められるように管理する。短期間での回答が出せるものと中期的なものともを理解し適切な指導していく。
A192016 建築意匠学	1.建築における、デザイン、形態、装飾などに対する知識を広げること。 2.設計製図でのアイデアを考える手がりやプロセスを見つけ出すこと。	建築の事例作品において、作品の解説に留まらず、造形分析やコンセプトから計画への進め方など、建築における考察の手法を学ばせることができた。それらのプロセスを理解させることで、自身が設計する時へのアプローチを教えることができた。	授業評価4.29 事例作品などをPPTによる紹介が中心ではあるが、学生が造形分析を自ら行う講義も交えていきたい。
A192005 インテリアエレメント	インテリアを計画するために必要となる基本事項について理解ができ、かつ、それらの知識を用いて、実際のインテリア空間を評価できる。	インテリアを計画するにあたり、基本となるコンセプトからデザインへと移行する手法や、デザインに応じての各デザインエレメントを事例をもとに講義ができた。	授業評価4.52 多くの事例作品から、インテリアデザインのデザイン手法を解説し、コンセプトからデザインの関係性を座学として学ばせながらも、演習的な表現をできる簡単なスケッチなどを入れることを考えていきたい。
A192019 建築設計製図Ⅳ	コンセプトワークから空間デザインに導く力とプレゼンテーション力を習得することができる。大規模施設の構想力をつけるとともに、生活シーンをイメージした空間設計力を養います。また、コンセプトualな提案を“かたち”として表現できる力を養います。	企画的要素を入れた課題に対し、コンセプト提案から環境に即した計画をデザインへと完結させる講義であった。	授業評価4.67 大規模な建築となり、図面などの作業時間の調整を各週ごと明確にさせ、時間外での作業のスケジュールをより把握できるような工程を作る。
A192036 卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できるようにする。	各学生の課題に対し掘り下げるべき問題を提議し、自身が把握しながら課題に取り組めるようにした。毎講、学生たちはテーマを持って研究に対し考え、それらを第三者に伝える能力を身につけることができた。	授業評価3.67 毎講、学生たちの研究の進行状況を把握し、スケジュールにのった研究を進められるように管理する。短期間での回答が出せるものと中期的なものともを理解し適切な指導していく。



担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A191023 建築構造実験	1) 実験により実構造物の挙動を体感し、崩壊性状を考えることにより、洞察力を涵養する。 2) レポートを作成することで論理的思考ができる。	本講義は1)理論的講義、2)実験、3)レポート作成で構成されます。1)および3)は対面式の講義で、2)は実験室で試験体または載荷・測定装置の準備、載荷実験を行います。従来の画一的な実験ではなく、学生自身がディスカッションを行いながら、実験方法から検討するPBL形式の授業としています。学生の到達度レベルを見る限り、当該授業の目的は十分に達していると考えられる。	授業評価 4.29 上記のように学生自身がより一層能動的に学習できるように授業コンテンツを見直すことに加えて、構想・検討・実施等の時間配分を見直すこととする。また、レポート作成においては、作成方法を教授する形に移行する。
A191016 構造力学Ⅱ	断面の特性や不静定構造物の応力、変形を計算することができる。 多種多様な構造物(建築物)の力の流れを理解できる。	対面式の講義で考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。演習時間を十分に確保することができたが、一人ひとりの学生に対するフォローで不十分な面があった。	授業評価 4.29 学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。
G191018~G191021建築学特別研究A~D	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	受講生がいないため、開講せず。	0
G191018~G191021建築学特別研究A~D	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	受講生がいないため、開講せず。	0
A191039 構造解析	構造計画、構造設計の手順を理解できる。 実務で実施される設計行為について一連の流れを理解できる。 計算法の習得と地震外力の考え方を習得し、具体的な計算ができる。	前半の授業において、基礎的な力学の復習と構造計算を実施し、後半の授業では構造解析を実施した。力学の演習では、多くの学生が基礎的な知識不足が目立ち、後半の構造解析では、解析結果を意味を読み取ることができない学生が多く見れた。	授業評価 3.94 上記のように学生の基礎的な知識および能力が十分に培われていない。この点を考慮してより一層丁寧な説明と授業内容に改善する方向で検討する。
L191033 キャリアデザインⅢ	自己のこれまでの経験について、客観的にまとめることができる。 自身の学科の学びに関係する仕事の内容について理解できる。 物事を論理的に考え、積極的に発信していくことができる。	ポートフォリオの作成と学科での学びに係る仕事の講義、情報収集、成果発表などからなる実践的な授業を実施した。提出された課題を見る限り、ポートフォリオの作成では、学生自身が振り返りを行い、自己の足跡と今後のキャリア形成に有益な学修ができたと思われる。	授業評価 4.25 カリキュラム改定に伴い、次年度以降は開講せず。
A191004 住宅のつくり	住宅建築の工法や構造などの専門用語を理解することができる。建築物のありようを理解し、建築構法の作図をすることができる。	教科書・授業資料(配付プリント)を用いた講義を行うとともに、授業時間内外で複数回の作図を含む演習で理解を深めた。1年生ということもあり、学習意欲にはばらつきがあり、それが課題を含めた成績状況に反映している。	授業評価 4.26 学生の興味・関心を高め、学習意欲を向上させるようなイントロダクションになるような工夫が必要であり、この点に重きを置いてコンテンツを見直すとともに方法を検討する。
A191008 専門ゼミナールⅠ	建築に関わる様々な事実や事象を自らの問題意識をもって理解することができる。 問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけ、活用することができる。 問題や解決提案を他者に伝えることができる。	地域を対象としたアクティブ・ラーニングを実施するため、学生同士が共に学んでいく協同的学習を行った。学生の達成状況からみて、授業の目的を達成するに十分な時間をかけて授業が実施できたと思われる。	カリキュラム改定に伴い、次年度以降は開講せず。
G191016 設計演習A	各領域の実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、実践的職業人として社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。	構造分野の実践的設計能力の向上を目的として、構造図面の作成を中心に課題を行うとともに、各テーマごとにプレゼンを行った。試験課題を含めた課題の状況を見ると、受講生の設計能力の向上に十分寄与したと言える。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表 大学院講義の性格上、専門領域外となる受講生も多い。そのため、基礎的な説明の時間を増やす工夫をする。
G191007 構造設計論	構造設計に関する基礎的知識を習得する。 各種構造形式の構造規定を理解できる。 構造計算方法を理解し、身につけることができる。 過去から現在までの技術の変遷を理解できる。	受講生がいないため、開講せず。	0
A191033 卒業研究Ⅰ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	授業の性格上、個別指導となる。 全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。	授業評価 4.85 個々の学生の学習進行状況にばらつきが生じた。今後は個々の学生の学修能力に合わせた指導が必要である。
A192011 鉄骨構造	1) 鉄骨構造形式に関する基礎的知識を習得すること。 2) 鉄骨構造形式の構造規定を理解し、論理的思考力を身につけ、第三者に対して説明ができること。	板書、スライド等を使用しながら対面学習型の講義形態で実施した。鉄骨構造の専門的な知識を教授するとともに、計算演習を行った。計算演習は高度に専門化した内容ということもあり、計算法は理解してもその意味と意義の理解までは深めることできなかった。	授業評価 4.32 カリキュラム改定に伴い、次年度以降は開講せず。
A192012 RC構造	鉄筋コンクリート構造の特徴・特質と部材の設計方法の概略を理解できる。 RC部材の構造計算方法を理解し、計算することができる。	テキストを用いた対面式講義形態とし、講義時間前半は各単元の理論を学び、講義時間後半は同単元の演習問題を実施した。提出された課題および学生の成績状況を見る限り、後半の演習では、計算方法は理解させることができたと言える。	授業評価 4.22 カリキュラム改定に伴い、次年度以降は開講せず。

A192032 卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	授業の性格上、個別指導となる。全体的には、レポート作成に重点を置いて指導を行った。学生により達成状況に多少の差はあるが、個々の学生に合わせて十分に指導ができたと言える。	授業評価 4.40 テーマにより研究方法は異なるが、基本的には学生に合わせて丁寧に指導を行うよう心掛ける。
G192006 構造安全論	1. 構造物の安全性に大きな影響を及ぼす地震、台風などが建物に及ぼす影響について理解し、説明ができること。 2. 構造設計に対して適用できること。	受講生がいないため、開講せず。	0
A192018 構造計画学	構造計画、構造設計の手順を理解できる。実務で実施される設計行為について一連の流れを理解できる。計算法の習得と地震外力の考え方を習得し、具体的な計算ができる。	教科書・授業資料(配付プリント)を用いた講義を行うとともに、図面作成や計算を含む演習を行った。前半の授業において、基礎的な力学の復習と構造計算を実施し、後半の授業では構造図の作成を実施した。力学の演習では、多くの学生が基礎的な知識不足が目立ち、後半の構造図の作成では製図能力の低い学生が多くみられた。	授業評価 4.13 講義内容を見直し、構造計算と構造設計や構造図の説明時間の配分を再検討する。
A192002 力学入門	基本的な静定構造物(片持ち梁、単純梁、静定ラーメン構造物、静定トラス構造物など)の反力と応力(軸力、せん断力、モーメント)を算定することができる。	基本的な原理や理論を修得することを目的として、講義形態で実施し、授業時間内外で複数回の演習問題を行った。入門段階としては少々高度な内容ではあったが、演習問題により力学的計算能力を向上させることはできた。	授業評価 4.44 学生の成績状況と授業評価から判断して、当該授業の学修到達度レベルに十分な授業ができたと言える。今後はさらに授業に工夫を加えて、より深いレベルまで理解できるようにする。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A191009 建築CAD I	<p>具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業です。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでの学習することが期待されます。</p>	<p>2) 自己評価</p> <p>教員2名による2クラスに分かれて同様の授業を実施している。必修科目のため受講人数は40名で、履修生は積極的に取り組んでくれた。SAが授業のフォローをしている。当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に、課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとった。</p> <p>学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い、素早く解消できたと考えます。</p> <p>毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生は、正確なCAD技術や知識を身につけた。</p> <p>教員1名で、TAやSAの学生フォローもない状況で39名の履修者の対応のため、適切に対応できていない部分も多々あったと思う。しかし、選択科目であるため、CGIについて学びたい履修生が受講しており、学生は積極的に取り組んでくれた。</p> <p>授業開始時に、課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとったため、不明点の解消は素早くできたと考えます。</p> <p>基本2週間で1課題とした。課題数は多いが、課題をこなすことになり、最終課題は複雑な形の住宅を完成させた学生も数名おり、学生は様々な対応ができるようになったと考えます。</p>	<p>3) 授業改善・対応方法</p> <p>授業評価 4.36</p> <p>授業評価回答率が93%と非常に高く、授業評価も高い結果となった。必修科目のため、例年、課題が提出できない学生は数名いたが、今年度は一人もいなかったため、多くの学生が授業について満足したと考える。CADが不得意な学生にはSAに集中的にフォローさせるなどの方法で、他の学生と同程度の進捗状況までにするにより、やる気を持たせよう工夫したい。</p>
A191021 建築CG I	<p>建築プレゼンテーションの表現技術は日増しに多様化・複雑化しておりより高度な表現が求められる。本演習ではより効果的な表現・プレゼンテーション能力を向上させることを目標とします。</p> <p>複数のアプリケーションを用途に応じて活用した建築プレゼンテーションの作成技術を修得し、上述したような社会のニーズに応えられる能力の育成することが期待されます。</p>	<p>教員1名で、TAやSAの学生フォローもない状況で39名の履修者の対応のため、適切に対応できていない部分も多々あったと思う。しかし、選択科目であるため、CGIについて学びたい履修生が受講しており、学生は積極的に取り組んでくれた。</p> <p>授業開始時に、課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとったため、不明点の解消は素早くできたと考えます。</p> <p>基本2週間で1課題とした。課題数は多いが、課題をこなすことになり、最終課題は複雑な形の住宅を完成させた学生も数名おり、学生は様々な対応ができるようになったと考えます。</p>	<p>授業評価 4.44</p> <p>授業評価が高かった。授業評価回答率が85%と高く、成績評価以上に授業評価が高い。教員1名での対応には限界があるため、TA、SAの採用をお願いすると同時に、課題の選定及び統合を行い、課題数を減らしても同程度の力がつくよう工夫したい。</p>
A191035 卒業研究 I	<p>授業の中でディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることです。</p> <p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定し、これを研究成果としてまとめるようにする授業であり、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力や、他の人に伝える力を養うことが期待されます。</p>	<p>履修者数7名、各自が卒業研究のテーマを選択するため、適正な人数であったことに加え、履修生は積極的に取り組んでくれた。履修生により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するよう心がけた。</p>	<p>授業評価 4.55</p> <p>実際の成績に比例はしているが、成績評価以上に、授業評価が高かった。授業評価回答率が57%程度で、多少、授業評価が高い(達成目標の達成度が高い)学生に回答が偏った可能性も否定できない。</p> <p>研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。</p>
A191035 卒業研究 I	<p>授業の中でディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることです。</p> <p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定し、これを研究成果としてまとめるようにする授業であり、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力や、他の人に伝える力を養うことが期待されます。</p>	<p>履修者数7名、各自が卒業研究のテーマを選択するため、適正な人数であったことに加え、履修生は積極的に取り組んでくれた。履修生により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するよう心がけた。</p>	<p>授業評価 4.55</p> <p>実際の成績に比例はしているが、成績評価以上に、授業評価が高かった。授業評価回答率が57%程度で、多少、授業評価が高い(達成目標の達成度が高い)学生に回答が偏った可能性も否定できない。</p> <p>研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。</p>
A192014 福祉住環境学	<p>高齢者、障害者の住環境整備を福祉、医療、建築の3つの側面から修得するとともに、個別の住環境整備の事例に対して実践的な提案ができるようになります。</p> <p>現在、高齢者・障害者のみならず、すべての生活者が安心して暮らせる生活環境の整備が重要になっており、そのような生活環境整備に係わるには、医療・福祉・建築について体系的な幅広い知識と福祉用具や諸施策情報など、看護や保健など各種の専門職の内容についての知識も必要です。高齢者や障害者の住環境の整備に必要な医療・福祉・建築の知識について学習することが期待されます。</p>	<p>履修生71名であった。</p> <p>授業前に、予習課題として授業で行う内容について各自で調べることで、授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ち授業を受講することができたと考えます。</p> <p>プレゼンテーション資料も提示するとともに、授業後に確認できるようプリントを配布した。授業終了前に〇×問題も学生にこなさせるなどの工夫をし、資格取得を希望する学生には別途対応した。</p>	<p>授業評価 4.29</p> <p>授業評価回答率は47%と高くなく、授業評価が必ずしも学生の評価を反映していない可能性も考えるが、評価はあまり高くないようである。これは、医療・福祉・建築の幅広い知識と福祉用具や諸施策情報などに多くの事柄について学習することが大きいと考えられる。学生意見により継続的に改善・対応するとともに、様々な知識をむすびつけるよう工夫したい。</p>
A192026 宅地建物管理	<p>土地及び建物に関連する権利関係・法令上の制限(特に民法、建築基準法)を理解し、ものづくり及び管理に必要な工程管理・品質管理等について理解することができます。</p> <p>建築学の目的や内容を理解するための手助けとして、土地及び建物に関連する権利関係・法令上の制限(民法、借地借家法、建築基準法、建築設備等)、それに関わる工程管理・品質管理について体得することが期待されます。</p>	<p>履修生が61名であり、3年次の選択科目の履修生数としては多い。</p> <p>主には授業資料を配布し、その説明を行うとともに、民法などの理解が難しい事例については、白板に板書・説明を書き加えるなど、理解が進むように工夫した。また、教科書にある〇×問題などについても逐次説明した。令和1年度民法の大改正及び、建築基準法なども多少変更があり、その部分の説明も行った。この点については、履修生からの評判がよかった。</p>	<p>授業評価 4.22</p> <p>授業評価回答率は41%と高くない。</p> <p>宅地建物管理の授業内容は、これまで学修した建築基準法、都市計画法などの法律も扱うため、関連づけるとともに、今後、法律の変更点などがあれば対応したい。</p>
A192034 卒業研究 II	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになることや、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることです。</p> <p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して進める授業です。卒業研究Iで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの講読などから得られる知見を総合的にまとめあげることが目的とします。</p>	<p>履修者数7名、各自が卒業研究のテーマを選択するため、適正な人数であったことに加え、履修生は積極的に取り組んでくれた。履修生ごとに研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するよう心がけた。</p>	<p>授業評価 4.76</p> <p>授業評価回答率が71%と高い。研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A191018建築法規	「建築法規の基礎」を習得の基本とし、建築士の資格取得のほか関連資格(宅地建物取引士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター等)にも対応できる知識の習得を目標とします。	建築基準法の構成や用語の定義の確認などから始め、初めて手に持つ学生に対しても法令集に馴染んでもらえるように取り組んだ。そして、建築設計で必要になる建築基準法や施工令を事例を参考に学習をすすめた。さらに、後半には2級建築士の法規問題で頻出する問題を参考例に法令集の確認方法、問題例、回答例を段階を踏んでおこなった。	授業評価 4.32 建築士試験に対応できることを目的としており、ポイントとなる法令が多く、一部の学生には専門用語や法令集の読み方などを理解し、学修することが困難な様子もみられたため、授業時間外等で別途対応できるようにしたい。
A191011建築計画学	建築の計画・設計に必要な基本的な用語を理解してもらいます。建築計画上、必要な数値を覚えてもらいます。授業中に解説する建築作品の計画的特徴と意匠性を理解することができる。	同時期に実施される建築設計製図Ⅰでの住宅設計を視野に入れ、住宅を中心とした建築計画を前半に講義し、その後他用途についての授業を行った。定期的に調べ学習を取り入れ、授業で学んだ用途の建築事例についてより理解を深めてもらうようにした。また、授業時間内には、授業内容確認のための確認演習問題を行い、学習の定着をはかった。	授業評価 4.30 調べ学習や確認演習問題について、一部の学生は提出することを目的としてしまい、何のために行うのかを理解しきれていない様子が窺えたため、学習の目的と意義を都度何度も伝える必要があると考える。
A191026インテリア設計Ⅰ	インテリア設計の基本的知識と表現技術として、「家族」「住まい」の各関係と基本構成要素、基本的条件、エレメントの学修を通して、コンセプトワークから計画・設計・コーディネートボードまでできることを授業の達成目標とします。	まず、家族や住まうことについての基礎知識を学び、そして、建築ストック増加の社会問題を知ってもらう。その上で、内部空間の空間計画や、演出方法などを事例を通して学修し、それらを踏まえた上で価値のある居住空間の提案をしてもらった。プレゼンテーション技術も習得しつつ、コンセプトボード、各種図面、マテリアルボード、コーディネートボードを制作した。インテリアエレメントの選定も実際に販売されているメーカー商品カタログから選定することで、より実践的に学び、就職活動時のポートフォリオとしても活用できるものを意識させた。	授業評価 4.66 履修者数全員が異なる提案をし、また、それぞれの技術も異なるため、個別に対応した。大学にしかないソフトを使うものもあり、授業時間外でも作業ができるように適宜質問には対応するようにした。
A191026インテリア設計Ⅱ	インテリア設計の基本的知識と表現技術として、「家族」「住まい」の各関係と基本構成要素、基本的条件、エレメントの学修を通して、コンセプトワークから計画・設計・コーディネートボードまでできることを授業の達成目標とします。	まず、家族や住まうことについての基礎知識を学び、そして、建築ストック増加の社会問題を知ってもらう。その上で、内部空間の空間計画や、演出方法などを事例を通して学修し、それらを踏まえた上で価値のある居住空間の提案をしてもらった。プレゼンテーション技術も習得しつつ、コンセプトボード、各種図面、マテリアルボード、コーディネートボードを制作した。インテリアエレメントの選定も実際に販売されているメーカー商品カタログから選定することで、より実践的に学び、就職活動時のポートフォリオとしても活用できるものを意識させた。	授業評価 4.66 履修者数全員が異なる提案をし、また、それぞれの技術も異なるため、個別に対応した。大学にしかないソフトを使うものもあり、授業時間外でも作業ができるように適宜質問には対応するようにした。
A191005建築計画Ⅰ	建築計画のために必要な視知覚の感覚や、身体と人間行動について理解することができる。建築の計画の方法を理解することができる。用途別による建築計画を理解することができる。	同時期に行われている建築概論からの流れも配慮し、初学生にも興味を持ってわかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に調べ学習を取り入れ、授業で学んだ用途の建築事例についてより理解を深めてもらうようにした。また、授業時間内には、授業内容確認のための確認演習問題を行い、学習の定着をはかった。	授業評価 4.25 調べ学習や確認演習問題について、一部の学生は提出することを目的としてしまい、何のために行うのかを理解しきれていない様子が窺えたため、学習の目的と意義を都度何度も伝える必要があると考える。
A191003建築概論	建築で学ぶ科目のつながりを理解できる。建築学でのそれぞれの領域の科目構成を理解できる。本学での建築学と、建築士資格での領域の構成対応について理解できる。	教員2名による2種目に分かれた授業で、前半と後半に分かれ、建築の歴史や、法規など建築に関する各分野の基礎の学習を行った。法規、計画、設備、インテリア、材料、環境心理を担当し、今後具体的に学ぶことになる全貌の概要が把握できるように、視覚的にわかりやすい資料を用意し、身近な例を取り上げて実施した。	授業評価 4.42 建築の専門教育の全体が把握できる科目であるため、視覚的にかつ身近な事例を通して、興味を持って学習してもらえるように今後も行いたい。
A191039卒業研究Ⅰ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	卒業研究Ⅰにおいては、高等教育の総合成果として、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身につけられるように対話を重ねおこなった。大学最後の課題になるため、学生自身が考えたテーマの研究成果が出るように、タイムマネージメントやタスクマネージメントが自主的にできるよう誘導した。学生が自ら疑問に思っていることを引き出し、それぞれの考えるテーマに近い既往研究や事例を紹介し、研究方法や調査方法など対話を通して進められるようにした。	授業評価 4.40 16週と限られた回数での実施になるため、時にはこちらから先回りして指導してしまうこともあるため、学生自ら動き、考えられるように見守ることもしていきたい。
A192009建築設計製図Ⅱ	建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できるようになる。	建築設計の成果をあげるために、対象敷地の見学や、資料収集は欠かせないものとなるため、対象敷地はいつでも見学できる大学近くの場所を設定し、また資料収集でなにより注目することが重要かを伝え学習するようにした。また、集合住宅の一部屋はワンルームの広さ程度にすることで、自室ならどう過ごしたいかという身近な空間の経験から提案できるものとした。さらに、共有スペースや店舗も大学近くにある学生寮としたばあい、どんな需要があるのかも各自分析し、検討するように誘導した。昨年度の参考作品を示すことで、達成する目標も明確にするようにした。	授業評価 なし まっさらな敷地に、なにをどうやって計画していくのか手をつけられない学生もいたため、学生の考えをもとに描画を手伝いアイデアの整理のサポートをした。学生によっては、全ての段階でサポートを必要とするものもいるが、できる限り自分で考え、図面化していきけるように誘導したい。

A192037卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	卒業研究Ⅱにおいても、高等教育の総合成果として、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身につけられるように対話を重ねおこなった。大学最後の課題になるため、学生自身が考えたテーマの研究成果が出るように、タイムマネジメントやタスクマネジメントが自主的にできるよう誘導した。特に後期のⅡにおいては、前期で調査・分析した資料をもとに、さらなる考察や成果を達成できるようにした。経過報告を頻繁に行い、研究が滞っているものがないよう注意して行った。	授業評価 なし 学生によっては、タイムマネジメントが苦手な学生もいるため、授業時間外でも対応できるようにした。
A192024インテリア設計Ⅱ	インテリアのイメージ・コンセプトワークからデザインワークまでを可能にする。そのため、スケッチ、仕上げ材料についての理解、ラフ模型の制作、CAD能力ほかコンピューターソフトの応用力を養うことを目標とします。	インテリア設計Ⅱの発展内容である店舗空間の提案を行った。後期から初めてインテリア設計を履修する学生にも対応した内容としつつ、前期から履修している学生にも前期の課題を踏まえ、より質の高い作品制作を目指すものとした。スケジュールを示しており、毎回進行状況を確認していることから大半の学生がいつまでに何をするのかを明確にした。しかし、一部の学生によっては、スケジュール通り行かない学生もいたため、個別に対応できるようにした。インテリアエレメントの選定も実際に販売されているメーカー商品をカタログから選定することで、より実践的に学び、就職活動時のポートフォリオとしても活用できるものを意識させた。	授業評価 なし 3年前期までに学んできた知識や技術を活用しつつ、ただ美しい空間を提案するだけでなく、その利用者や使われ方もイメージする課題になっているが、一部の学生にはリアルな活用法のイメージがわからない学生もいたため、事例収集やエスキスでの対話を増やし、イメージしてけるように誘導したい。
A192020専門ゼミナールⅣ	建築に関わる様々な事実や事象を自らの問題意識をもって理解し、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけ、意見や批判を受け止め、考えつづけていく探求能力を身につけられるようにします。	教員2名による2種目に分かれての授業で、前半と後半に分かれ、建築の資格や、インテリアエレメント、インテリアエレメントメーカー、インテリアデザインの仕事、インテリア関連論文に関する授業を行なった。視覚的にわかりやすい資料を用意し、身近な例を取り上げて実施した。また、より理解と興味を深めるために、毎授業に調べ学習を取り入れた。既往研究を閲覧し、その目的、方法、結論をまとめることで、論文手法についても学ぶ機会を設けた。	授業評価 なし 4年時の卒業研究および卒業設計も視野に入れ、授業を行った。また、インテリア関連へ就職を希望する学生のために、デザインだけでなく、メーカーや施工など幅広い需要があることも示した。自ら建築的視点における問題に気づき、テーマを考えることが苦手な学生もいるため、既往研究の調べ方や読み方にもう少し時間をかけるようにしたい。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A191010 建築CAD I	<p>具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とします。</p>	<p>本講義ではJW-CADを使った建築図面作図を課題として取り組んでいるもので、①基本操作、②図面表現ルール、③効果的な表現方法取得、という異なるハードルが存在しています。①を主に指導する傍らで、②についても指導を行うことが十分にできているとはいえない状況であり、また③については事例紹介・口頭説明にとどまっています。</p> <p>また、①について学習する際に、学生個々は教科書の指示に沿って作業を行うスタイルを採っています。これは、受講者数と操作能力を踏まえて選択したのですが、近年特に「教科書の指示が分からない」というケースが増えてきています。かといって教卓のPC画面を見せながら一緒に作業を進めるスタイルも進行具合、指示のキャッチ度合いに差が大きく試行錯誤しています。</p>	<p>上記2)において記した問題点・課題を多少なりとも解消すべく、②、③についての資料・説明の充実を試みます。また、現状の教科書準拠の作業を見直し、単発の簡易な図面を何度も書かせるようなスタイルに変更することも検討します。</p>
A191020 専門ゼミナールⅢ	<p>建築に関わる課題に積極的に取り組み、解決策・提案をまとめることができる。</p>	<p>教員3名体制で、履修者を3つに分けオムニバス形式で授業を行っています。これにより、必修科目でありながら、グループ規模を抑えての指導が可能であり、また、教員や課題・テーマが4週ごとに変化することで、学生にとってもメリハリある授業と感じられるよう好評でした。とはいえ、科目名称にあるような「ゼミナール」としての性質は薄れてしまっているのが難といえるかと思われます。</p>	<p>オムニバス形式は維持しつつも、グループを2つに縮小し、より探求的要素のある課題内容に改めます。</p>
A191036 卒業研究 I	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>学生個々の関心、意欲、進路などに沿って個別指導をじっくりと行うことができました。しかしながら、学生が卒業前(大半は就職する)に、研究者である教員と少人数教育で取り組むことができる「卒業研究」として、価値を共有しながら授業展開ができたかという点、そうとはいえません。この傾向は年々進んでいるように思えます。「研究」にウエイトをおいた授業を維持するのか、「卒業課題」くらいの位置づけで、ワークを実施するのか、その両方をメニュー設定しておくのか、悩ましく感じています。</p>	<p>学生自身が課題を設定し、その課題を解決するための手順を模索し、実行しつつ、それを報告し、次の作業を模索するというスタイルがピンとこないまま時間が過ぎてしまう学生が次第に多くなってきているため、何度も説明しつつ、さらに理解の補助線となるようなワークや資料を提供します。</p>
A191036 卒業研究 I	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>学生個々の関心、意欲、進路などに沿って個別指導をじっくりと行うことができました。しかしながら、学生が卒業前(大半は就職する)に、研究者である教員と少人数教育で取り組むことができる「卒業研究」として、価値を共有しながら授業展開ができたかという点、そうとはいえません。この傾向は年々進んでいるように思えます。「研究」にウエイトをおいた授業を維持するのか、「卒業課題」くらいの位置づけで、ワークを実施するのか、その両方をメニュー設定しておくのか、悩ましく感じています。</p>	<p>学生自身が課題を設定し、その課題を解決するための手順を模索し、実行しつつ、それを報告し、次の作業を模索するというスタイルがピンとこないまま時間が過ぎてしまう学生が次第に多くなってきているため、何度も説明しつつ、さらに理解の補助線となるようなワークや資料を提供します。</p>
A191040 建築経済学	<p>建築と経済の関係を理解するための基礎知識が理解できる。</p>	<p>4年選択科目のため、受講する学生は授業内容に関心をもった者と、卒業するための単位を確保しにする者の両極端に分かれます。そのため、授業への取り組みにも大きく差がでてしまうのが通常です。前者を満足させつつ、後者にも興味関心を持ってもらうため、扱うテーマや事例を工夫しました。とはいえ、効果が十分にできているとはいえないのが現状です。</p>	<p>上記の課題を克服すべく、引き続き、テーマや事例の検討を行い、小テストやワークなど授業参加を促す仕掛けを入れ込みます。</p>
A191043 住宅産業論【開放】	<p>住宅産業が成立した経緯や要因を説明することができること。また、これからの住宅産業について、課題や可能性を自らの意見として述べるができること。</p>	<p>4年選択科目のため、受講する学生は授業内容に関心をもった者と、卒業するための単位を確保しにする者の両極端に分かれます。そのため、授業への取り組みにも大きく差がでてしまうのが通常です。前者を満足させつつ、後者にも興味関心を持ってもらうため、扱うテーマや事例を工夫しました。とはいえ、効果が十分にできているとはいえないのが現状です。</p>	<p>上記の課題を克服すべく、引き続き、テーマや事例の検討を行い、小テストやワークなど授業参加を促す仕掛けを入れ込みます。特に本講義の内容は、外部の方々や本学卒業生などから興味関心を持ってもらうことが多く、そうした魅力を生徒にも味わってもらえるよう、実社会とのつながりも詳しく説いていきます。</p>
A192001 基礎製図Ⅱ	<p>①建築図面の記号や表記方法を理解できる。 ②基本的な建築図面の読み書きができる。 ③基本的な住宅建築の設計・製図を行うことができる。</p>	<p>1年生必修科目のため、2グループに分けて授業を行った。おおよそ40名少しが1教室に入ることになるため、指導・巡回も密に行え、また、学生の私語軽減、集中力維持にも効果があったと考える。</p>	<p>授業評価4.44 本年度で本科目担当を離れるため、次年度担当教員に引き継ぎ、申し送りをしっかり行う。</p>

A192003 住宅プランニング	<p>①住宅建築(主に戸建て住宅)の計画に関する専門用語を理解することができる。</p> <p>②住宅建築のプランニングがどのようになされているか理解することができる。</p> <p>③住宅建築のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。</p>	<p>1年生必修科目であり、1教室に90名程度の学生を要する講義となります。そのため、まずは集中力維持のため、授業90分を3部に分け、①教科書に沿った説明、②パワーポイントによる事例紹介、③演習課題としています。これにより、学生にとってもメリハリある授業展開となっているものと思われま</p> <p>演習の一部をグリッドプランニングを採用しています。以前は内容を理解した上で、パスル感覚で間取りがつけられることを楽しんでくれる学生が多くなりましたが、近年、次第にそこにまで至らないケースが多くなってきています。どのように理解を促すか悩ましいところです。</p>	<p>授業評価4.40</p> <p>上記のような課題を克服すべく、グリッドプランニングの課題回数をまずは増やし、場数をこなすことでの理解度アップを試みてみます。</p>
A192009 専門ゼミナールⅡ	<p>建築に関わる課題に積極的に取り組み、解決策・提案をまとめることができる。</p>	<p>教員3名体制で、履修者を3つに分けオムニバス形式で授業を行っています。これにより、必修科目でありながら、グループ規模を抑えての指導が可能であり、また、教員や課題・テーマが4週ごとに変化することで、学生にとってもメリハリある授業と感ぜられるよう好評でした。とはいえ、科目名称にあるような「ゼミナール」としての性質は薄れてしまっているのが難といえるかと思われま</p>	<p>授業評価4.09</p> <p>上記のような問題点はありますが、本講義は本年度終了となるため、ここで得た知見は他の担当科目へと活かしていきます。</p>
A192010 建築CADⅡ	<p>2次元CADやレイアウトソフトによる図面表現やプレゼンテーションボードの作成および3次元モデリングに基づいたパースの作図・加工ができる。</p>	<p>本講義では2名体制で授業を行い、前半回を竹内によるプレゼン資料作成、後半回を高木先生による3DCADに取り組んでいます。いずれの課題も、①基本操作、②図面表現ルール、③効果的な表現方法取得、という異なるハードルが存在していますが、①を主に指導することでタイムオーバーとなることが通常です。②や③についてどうやって理解を高めるかが課題と考えています。また、学生間での理解度、課題進捗度に大きな開きが生じるため、これにどう対処するかも課題と考えま</p>	<p>本年度で本科目担当を離れるため、次年度担当教員に引き継ぎ、申し送りをしっかり行う。</p>
A192035 卒業研究Ⅱ	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>学生個々の関心、意欲、進路などに沿って個別指導をじっくりと行うことができました。しかしながら、学生が卒業前(大半は就職する)に、研究者である教員と少人数教育で取り組むことができる「卒業研究」として、価値を共有しながら授業展開ができたかという点、そうとはいえません。この傾向は年々進んでいるように思えます。「研究」にウェイトをおいた授業を維持するのかが、「卒業課題」くらいの位置づけで、ワークを実施するのか、その両方をメニュー設定しておくのか、悩ましく感じています。</p>	<p>上記の課題を踏まえつつ、個々人の能力・適性を見極めつつ、学生主体の「卒業研究」になるよう対話の時間を充実させま</p>
L192026 キャリアデザインⅣ(A)	<p>①様々な業種・職種の仕事内容について、客観的に理解できる。</p> <p>②自身の就業適性について、客観的に理解できる。</p> <p>③社会人として就業するプロセスを理解し、ビジョンを描くことができる。</p>	<p>本学OBを含む多くの事例を紹介しながら、自身の将来を考えるための話題提供を行うことができた。とはいえ、話を理解できたはずの学生も、いざ自分自身のテーマに立ち戻って行動しようとする、理解したはずの内容が抜けてしまったりするため、学生個々が自分自身のケースへと落とし込めるような課題、あるいはサジェスションがさらに求められま</p>	<p>授業評価4.19</p> <p>上記のような問題点はありますが、本講義は本年度終了となるため、ここで得た知見は新カリキュラム担当者へ申し送りするとともに、他の担当科目へと活かしていきます。</p>